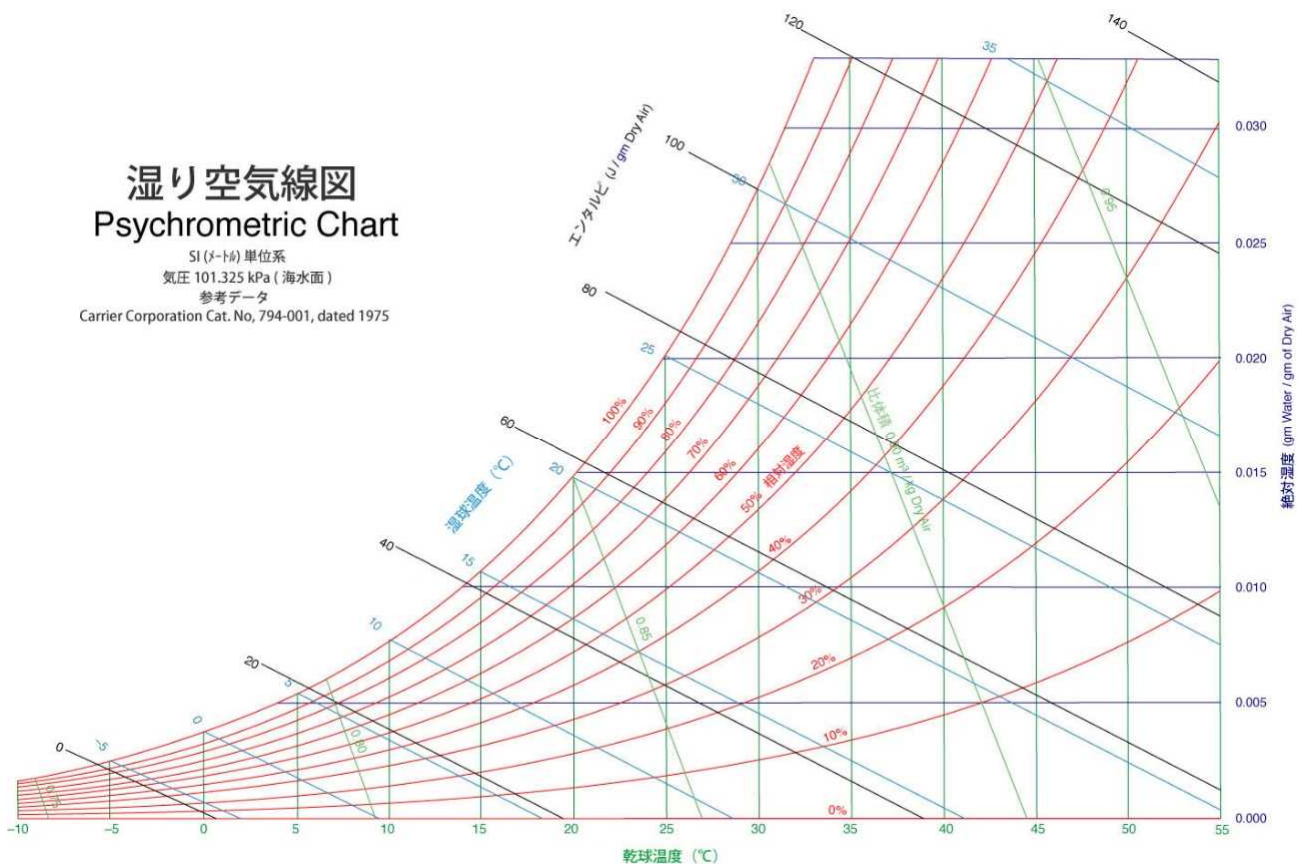


## 保存に適した温湿度

- ① 紙資料：A)最適温度  $22^{\circ}\text{C}\pm 2^{\circ}\text{C}$ 、最適湿度 RH  $55\%\pm 5\%$  【IFLA】  
B)最適保存温度  $2^{\circ}\text{C}\sim 18^{\circ}\text{C}$  (日較差 $\pm 1^{\circ}\text{C}$ 以内)  
最適保存湿度 RH  $30\%\sim 45\%$  (1日の湿度変化 $\pm 3\%$ 以内) 【ISO 11799】
- ② 羊皮紙・革：温度  $2^{\circ}\text{C}\sim 18^{\circ}\text{C}$  (日較差 $\pm 1^{\circ}\text{C}$ 以内)  
湿度 RH  $50\%\sim 60\%$  (1日の湿度変化 $\pm 3\%$ 以内) 【ISO 11799】
- ③ 光ディスク：長期保存環境 温度  $10\sim 25^{\circ}\text{C}$ 、湿度 RH  $40\sim 60\%$  【JIS Z 6017:2013】
- ④ 紙焼写真：中期保存 (10年) 温度  $25^{\circ}\text{C}$ 以下 (日較差 $\pm 5^{\circ}\text{C}$ )、湿度 RH  $20\sim 50\%$  (1日の湿度変化 $\pm 5\%$ 以内) 【JIS K 7642:2007】
- ⑤ ガラス乾板：中期保存 (10年) 温度  $25^{\circ}\text{C}$ 以下 (日較差 $\pm 5^{\circ}\text{C}$ )、湿度 RH  $20\sim 50\%$  (1日の湿度変化 $\pm 10\%$ 以内)、長期保存温度  $18^{\circ}\text{C}$ 以下 (日較差 $\pm 2^{\circ}\text{C}$ )、湿度 RH  $30\sim 40\%$  (1日の湿度変化 $\pm 5\%$ 以内) 【JIS K 7644:2004】
- ⑥ フィルム資料  
温度はできるだけ低く、相対湿度は  $15\%\sim 40\%$  【図書館資料としてのマイクロフィルム入門】  
規格は【JIS K 7641:2008】があり、中期保存 (10年) で相対湿度平均値  $50\%$ ・最高相対湿度  $60\%$  を超えない、平均温度  $21^{\circ}\text{C}$ 以下、 $25^{\circ}\text{C}$ を超えないとする。長期保存 (500年) の規格は通常の設定では不可能なレベル



- 敵なる湿気は外ではなく内にあり
- 温度の制御は割としやすいが、湿度の制御は空間が広くなればなるほど難しい。
- 空間の中央値としての温湿度制御のみで安心していると、局所的な温湿度変化により結露を生じてしまうことがある。
- 温湿度の制御で最も注意すべきは夏場より、日較差の大きい春と秋。
- 大環境（climate）と小環境（microclimate）の健全化。
- 異なる温度差の空間が接する部分に注意。
- 換気の吸気と排気の位置、吸気口と排気口の位置を把握しておく。
- 空気が書庫内をどのように循環しているかを把握しておく。
- 風の終点はゴミも湿気も溜まる場所。
- 環境の変化は五感で感じること。
- ゾーニングによる空間の適正配置